

社会を変える人魚姫たち

是恒 香琳

私はこれまで、大学自治会や学園祭実行委員会をはじめ、小さな学生有志の社会運動団体、世界規模の平和団体など、いろいろな活動団体に参加してきた。最近では、SEALDs(自由と民主主義のための学生緊急行動)だ。

さまざまな活動団体を経験して思ったことは、世の中はアンデルセンの童話に登場する「人魚姫」で成り立っているということだ。この世が、王子さまとお姫さまだけだったら、成立しない。声を失い、名乗りをあげず、王子をナイフで突き殺さず、泡になる誰かが必要だ。

人魚姫は浮かばれない。それでも幸せだ。なぜなら、王子さまの命を救い、王子さまとお姫さまを幸せにし、王国を存続させたのは、自分であると知っているからだ。

私はこれまでお姫さまか、王子さまポジションで活動してきた。人魚姫の存在に気付いていなかった。しかし、私を舞台に立たせてくれた人たちがいたのだ。そのことに、SEALDsに参加し、ひたすら雑用をしてみて、気がついた。

自由に歌えず、人のために一步一步痛みに耐えながら歩き、最期は海の泡になるというのはつらい。だから、私は人魚姫になりきれずにいる。ぶつぶつ、見たこと、聞いたこと、考えたことを書きなぐってしまう。美しい人魚姫は書きさえしない。

私は見た。SEALDsに限らず国会前や選挙事務所、全国に人魚姫はいた。

大切な貯金を寄付してくれたおじいさん。炎天下の中ポスティングをしていたおばあさん。黙々と機材を運んでいたメンバー。夜明けとともに、おにぎりやお茶をベビーカーに積み込んでやってきた母親たち。リクルートスーツのまま国会前に立った学生たち。

そういう目立たず、語らない人魚姫たちこそが、実は、王子さまとお姫さまの創造者であり、社会を本当に変える力をもっている。



PROFILE

これつねかりん：1991年生まれ。日本女子大学大学院在籍。著書に『日本女子大学生の世の中ウォッチ』（パド・ウィメンズ・オフィス、2014）がある。切り抜き情報誌『女性情報』（パド・ウィメンズ・オフィス）、『教育と文化』（一財）教育文化総合研究所）に連載。SEALDs(2016年8月解散)に参加。